

(8)

11. 現在までの達成度

下欄には、交付申請書に記載した「研究の目的」の達成度について、以下の区分により自己点検による評価を行い、その理由を簡潔に記述すること。また、国立情報学研究所でデータベース化するため、図、グラフ等は記載しないこと。
<区分>①当初の計画以上に進展している。 ②おおむね順調に進展している。 ③やや遅れている。 ④遅れている。

| |
|---|
| (区分) ② |
| (理由) この1年間の解析を通じて、これまで長らく不明であった神経軸索内におけるアクチンの輸送機構のメカニズムを検証し、本研究で提唱する輸送モデルを指示するようなデータを順調に得ることができた。また、学会発表を通して、細胞内アクチン動態の第一人者 James R. Bamberg 博士と実験データに関する建設的な議論を重ね、現在これらの議論に基づいて論文の投稿に向けて追い込みにかかっている。 |

12. 今後の研究の推進方策

本研究課題の今後の推進方策について簡潔に記述すること。研究計画の変更あるいは研究を遂行する上での問題点があれば、その対応策なども記述すること。また、国立情報学研究所でデータベース化するため、図、グラフ等は記載しないこと。

| |
|--|
| これまでの検証により、本研究で提唱する軸索内におけるアクチンの輸送機構のモデルを指示するようなデータを得ることが出来ている。そのため今後はさらにそれらをサポートするようなデータを得ていく予定である。具体的には、神経突起の先端でアクチン線維と相互作用することが知られているモータータンパク質 Myosin II のについて軸索内のアクチン輸送に関係しているのかどうかを検証する。 |
|--|

13. 研究発表（平成25年度の研究成果）

※ 「13. 研究発表」欄及び「14. 研究成果による産業財産権の出願・取得状況」欄において記入欄が不足する場合には、適宜記入欄を挿入し、それによりページ数が増加した場合は、左端を糊付けすること。

〔雑誌論文〕 計 (0) 件 うち査読付論文 計 (0) 件

| | | | | |
|---------------------------|-------|---|-----|---------|
| 著者名 | 論文標題 | | | |
| | | | | |
| 雑誌名 | 査読の有無 | 巻 | 発行年 | 最初と最後の頁 |
| | | | | |
| 掲載論文の DOI (デジタルオブジェクト識別子) | | | | |
| | | | | |

| | | | | |
|---------------------------|-------|---|-----|---------|
| 著者名 | 論文標題 | | | |
| | | | | |
| 雑誌名 | 査読の有無 | 巻 | 発行年 | 最初と最後の頁 |
| | | | | |
| 掲載論文の DOI (デジタルオブジェクト識別子) | | | | |
| | | | | |

| | | | | |
|---------------------------|-------|---|-----|---------|
| 著者名 | 論文標題 | | | |
| | | | | |
| 雑誌名 | 査読の有無 | 巻 | 発行年 | 最初と最後の頁 |
| | | | | |
| 掲載論文の DOI (デジタルオブジェクト識別子) | | | | |
| | | | | |

(注)・印刷に当たっては、A4判(縦長)・両面印刷し、左端を糊付けすること。

【学会発表】計（ 2 ）件 うち招待講演 計（0）件

| 発表者名 | 発表標題 | |
|-----------|------------------------------|----------|
| 勝野 弘子 | アクチンのトレッドミルによって引き起こされる遅い軸索輸送 | |
| 学会等名 | 発表年月日 | 発表場所 |
| Neuro2013 | 2013年6月20日～ 2013年6月23日 | 国立京都国際会館 |

| 発表者名 | 発表標題 | |
|--|---|------------|
| 勝野 弘子 | Axonal transport toward growth cones driven by directional actin turnover | |
| 学会等名 | 発表年月日 | 発表場所 |
| The 2 nd International Symposium of Dynamical Ordering of Biomolecular Systems for Creation of Integrated Functions | 2014年1月11日～ 2014年1月12日 | 京都キャンパスプラザ |

【図書】計（ 0 ）件

| 著者名 | 出版社 | | |
|-----|-----|-------|--|
| | | | |
| 書名 | 発行年 | 総ページ数 | |
| | | | |

14. 研究成果による産業財産権の出願・取得状況

【出願】 計（ 0 ）件

| 産業財産権の名称 | 発明者 | 権利者 | 産業財産権の種類、番号 | 出願年月日 | 国内・外国の別 |
|----------|-----|-----|-------------|-------|---------|
| | | | | | |

【取得】 計（ 0 ）件

| 産業財産権の名称 | 発明者 | 権利者 | 産業財産権の種類、番号 | 取得年月日 | 国内・外国の別 |
|----------|-----|-----|-------------|-------|---------|
| | | | | 出願年月日 | |
| | | | | | |

15. 備考

※ 研究者又は所属研究機関が作成した研究内容又は研究成果に関するwebページがある場合は、URLを記載すること。

| |
|--|
| |
|--|